

平成28年度 青年部災害ボランティア事業 実施報告書
『長崎から復興の狼煙を。～熊本の現在。被災地に今 私たちができること。～』

1 実施概要

全日本不動産協会長崎県本部青年部は、熊本地震で被災した西原村を中心とする被災地への災害ボランティアに参加して、被災地の復興支援に協力した。

この際、現地の災害NGO団体の協力を得て、仮設商店街の環境整備や仮設お風呂作りなど被災地の地域住民が求めている身近な支援を実施した。

2 実施日時

平成29年1月21日（土）～22日（日）の一泊二日

3 活動場所

熊本県西原村および益城町

4 参加者

全日本不動産協会長崎県本部 青年部
田中勝茂、大町行弘 以上 2名

5 実施内容

仮設商店街環境整備、拠点用テントの設営、仮設お風呂作り、資材運搬、支給備品の点検・整備

6 実施状況報告

<第1日目（1月21日（土））>

（1）参加者集合～午前のボランティア活動（9:30～12:00）

9時30分 周囲の地面には雪がうっすらと積もる中、予定通り参加者2名が西原村役場前に集合。災害NGO結 代表の前原氏と合流後、すぐに益城町役場前へ車両で移動した。



集合場所の西原村役場前



西原村役場の横には仮設住宅が広がる



未だに災害の爪痕が至る所に残る西原村

益城町役場の向かい側に地元の商店主たちが集まって営業を始めた仮設商店街の軒先に椅子やテーブルを配置するなどの環境整備を行い、集客効果の向上を図った。

その後、益城町役場横にあるボランティア団体の拠点となる場所で、車庫の解体とテントの設営を行った。



仮設商店街の環境整備により賑わいを創出



活動の拠点となるテントの設営



既存の車庫の解体作業

(2) 昼食～午後のボランティア活動 (12:00～17:30)

午前中の活動を終えて、西原村役場横にある災害ボランティアの活動拠点『もやいハウス』へ移動。宿泊場所の案内と説明を受けた後、昼食を食べた。

昼食終了後、西原村にある内田ライスセンターという場所で、仮設のお風呂作りを行った。先週からこの場所でのお風呂作りに取り組んでいる方からご指導を受けながら、何とか完成させることができた。

作業の終盤には、全日本不動産協会副理事長（熊本県本部長）松永様の表敬訪問を受け、激励のお言葉をいただいた。



活動拠点となる宿泊施設『もやいハウス』



仮設のお風呂のすのこ作り



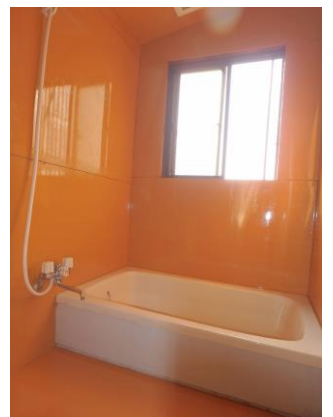
屋根の雨漏りを修繕中



お風呂作りを手伝う田中委員長



松永全日副理事長の表敬訪問を受ける



完成したお風呂の内装

(3) 入浴～夕食～就寝 (17:30～23:30)

午後の作業終了後、活動拠点である『もやいハウス』へ移動した。交代で入浴を済ませた後は、夕食の準備を行うため、食材の買出しを行った。しかし、移動で使う車両の故障や食材を買いに訪れた西原村にあるお店がことごとく閉店しているなどのハプニングがあり、結局、大津町方面まで買出しに出かけたため、予定よりかなり遅めの夕食（午後10時頃）となってしまった。

それでも、災害NGO結の代表 前原様の熊本地震が発生してからのこれまでの活動や住民支援の経過などの貴重なお話が聞けた。

夕食終了後、明日の打合せなどを行い就寝した。



完成したお風呂の外装



作業が終了した頃には夕暮れが近づく



ハプニングの後には楽しい夜の夕食会

<第2日目（1月22日（日））>

（4）起床～朝食～清掃（7:00～9:00）

二日目は、朝から小雨が降り始めた。

参加者は、起床後すぐに朝食を済ませた。この日は、『もやいハウス』の週に一度の大掃除の日であったため、『もやいハウス』内の清掃を各自で行った。

その後、簡単に今日の打合せを行った。この日は、益城町で廃材等の回収をするグループと昨日とは別の現場の仮設お風呂作りを担当するグループで分かれて行動することになった。

午前9時、それぞれの現場へと移動した。

（5）午後の活動（9:00～12:00）

青年部参加者は、仮設お風呂づくりのグループに入ったが、朝からの雨が降り続いていたため、午前中のお風呂作りは断念することになった。

そのため、まず、昨日バッテリーがあがり動かなかった故障車両の救援を行った後、資材置場へ移動して、昨日おろしきれなかった資材等を卸下し、資材置場の整頓を行った。

その後、『もやいハウス』へ戻り、被災者の方へ支給する予定の暖房器具類の整備と点検を行った。



バッテリーのあがった故障車両の救援



支給用のストーブの整備・点検



ひとつひとつ念入りに整備を行う

（6）帰宅準備～解散式～解散（12:00～13:00）

午前中の活動を終え、予定していた活動を全て終了したため、青年部参加者は帰宅準備を行い、お世話になった災害NGO結の皆さんにお別れの挨拶をして『もやいハウス』を出発した。

『もやいハウス』から地元の食堂に移動して、昼食を食べた後、解散式をして解散。各自が帰路についた。

7 その他

担当者総括：別紙第2「青年部災害ボランティア事業を終えて」参照

平成 28 年度 青年部災害ボランティア事業 実施時程表 (実績)

全日本不動産協会長崎県本部 青年部

時 間	1月21日(土)	1月22日(日)
06:00	出発	7:00 起床/洗面/朝食準備
	移 動 (各地域計画)	朝 食 後片付け/清掃 事前打合せ
09:30	現地到着 (集合場所:西原村役場) 移動(西原村~益城町)	9:00 移動(各現場) 【午前の活動】 ・故障車両の救援 ・資材の卸下、資材置場の整頓 ・支給用備品の整備・点検
10:00	【午前の活動】 ・仮設商店街 環境整備 ・テント設営 ・既存車庫の解体作業	
12:00	移動(益城町~西原村) 昼食(もやいハウス内) 移動(西原村内)	昼食 帰宅準備(個人物品積載等) 宿泊地 出発
13:00	【午後の活動】 ・仮設お風呂作り(内田ライスセンター) ・副理事長(熊本県本部長) 表敬訪問	昼食 解散式 解 散 各地域へ移動
17:30	移動(西原村内) ・資材の卸下等	
18:00	もやいハウス到着 入浴 夕食準備 夕食 後片付け 明日の打合せ	
23:30	就寝・消灯	

青年部 災害ボランティア事業を終えて

全日本不動産協会長崎県本部
青年部 委員長 田中勝茂

このたびの熊本地震により被災された熊本の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今回、『長崎から復興の狼煙を。～熊本の現在。被災地に今、私たちができること。～』というテーマを掲げ、平成29年1月21日～22日の間、青年部災害ボランティア事業を実施させて頂きました。

当初の予定より参加人数が減り、最終的には青年部の部員2名での参加でしたが、被災地で地域支援プロジェクトを展開されている災害NGO団体のご協力を得て、他の支援団体やボランティアの皆様と協力しながら、被災地の地域住民が身近に求めている支援に携わることができました。

また、熊本の現状を肌で感じるとともに、被災地の復興を願い、今も精力的に活動されている個人や団体の皆様と交流することができ、この事業の目的も概ね達成されたと思います。

平成28年4月14日に震度7を記録した前震と16日未明に震度6強を記録した本震、その後も続く度重なる余震などで、熊本県内に多くの被害をもたらした熊本地震から早くも9カ月が経過しました。道路や水道、仮設住宅などのインフラ整備は着々と進み、発生当初から比べれば街の風景も落ち着きを取り戻し、被災していない人々にとっては震災の記憶は薄れ始め、熊本の復興は収束に向かっていくように思われがちです。

しかし、震源地付近の地域では、未だにたくさん問題・課題が山積みになっていることに、今回の事業を通して気づかされました。

ひび割れた道路、未だにブルーシートのかかったままの屋根、全壊や半壊の認定を受けるまで取壊しを待ち続ける家屋群・・・何よりも被災された方々の心の傷は、たった数カ月では癒えることはないでしょう。

それでも前に進みたい、進まなければならないと思い行動する熊本の皆様の強い心、それを支えたいと思い、日本各地から、今でも駆けつけている災害ボランティアの皆様の存在。中には、ボランティアをするために仕事を辞めて駆けつけている人もいることを知り、驚くと同時に感銘を受けました。

被災地の復興支援は長期間に渡ります。「被災地の復興の完了は、地元住民が自分たちの手で生活を再建できるようになることが大切で、そのために、地域住民に寄り添い、地域の人々がその人らしく生きられる環境を地域と共に作り上げていくことが重要だ」と、今回の災害ボランティア事業に協力していただいた災害NGO代表の前原氏は仰っていました。

今回、特に印象的だったのは仮設商店街での環境整備の作業です。一週間前に完成したばかりの仮設商店街ですが、せっかく完成したのに通りから奥まっている上にプレハブを寄せ集めただけの簡素な造りだったため、そこにお店があることすらわからない閑散とした現状でした。

そこで、お店の前に誰でもくつろげるイスとテーブルを設置したところ、お店の人や周囲を通りかかった人がそこでお茶を飲みながら、「いつもボランティアありがとうね。」などと他愛もない話に興じながら自然と笑顔が生まれ、その場が賑わっていく・・・本当の復興とは、そういう心と心の触れ合い、支え合う気持ちを大切にして、被災した地域の人々が、自分たちでコミュニティを形成していく流れが自然とできていくことなのだと実感しました。

何カ月もかかって新しい大きな建物を作ることも大切かもしれませんが、仮設でも良いから小さなお風呂を作って、地域の方々に少しでも早く幸せを感じてもらい笑顔になって頂くことの方が大切なこともある。たとえ小さな活動でも、私たちにでもできることはたくさんあるんだと思いました。今回の事業では、多くの事を学ばせて頂きました。

放送作家で、熊本県出身の小山薫堂氏は、熊本に向けてこのようなエールを送っています。「苦難は人を磨きます。(以下、中略) 100年後の未来を想像してみてください。あの地震があったから、熊本県民の強さは磨かれ、感謝上手になり、誰からも頼られ愛される県民性を磨くことができたよね・・・そう言わせるために、県民が一丸となり、この苦難を乗り越えようじゃありませんか！今こそ、目の前にある日常を大切に生きるという幸せを、熊本から発信しようじゃありませんか！」

熊本県の復興は、まだまだ道半ばかもしれません。しかし、目の前にある日常を大切に生きるという幸せを胸に、熊本を思う人々が力を合わせれば、必ず復興を果たせるでしょう。

私たち全日本不動産協会長崎県本部青年部でも、今回の事業で終わりにせず、今後も熊本のためにわたしたちのできる支援を続けていこうと考えています。

最後に、今回の事業を実施するにあたり、現地との連絡・調整を取り計らっていただいた全日本不動産協会 松永副理事長、株式会社あゆみ不動産 代表 松永様、全日本不動産協会長崎県本部 鬼木本部長、そして、現地でのボランティア活動のご指導と宿泊場所をご提供いただいた災害NGO結 代表 前原様に感謝申し上げます。

がんばるけん、熊本県！

引き続き、長崎からも復興の狼煙を！